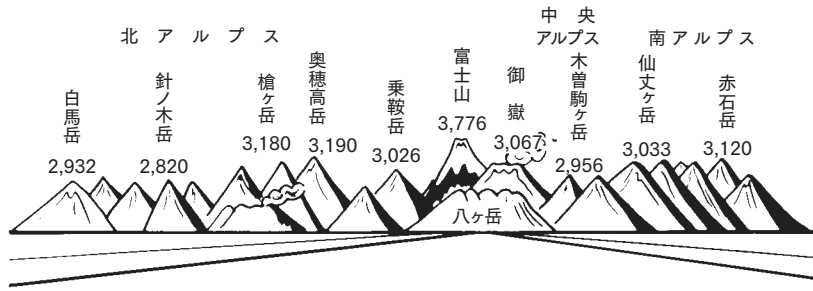


第 59 号

平成28年10月



砂防ニュースレター「長野」



(砂)千本木川^{オノ}大和^{オノ}第3砂防堰堤 (諏訪市)

目 次

「全国治水砂防協会通常総会」開催される… 2
「長野県治水砂防協会通常総会」開催…………… 3
宮川前会長退任あいさつ…………… 4
新役員あいさつ(会長・副会長)…………… 4～5

着任挨拶：湯沢砂防事務所長…………… 6
着任挨拶：多治見砂防国道事務所長…………… 7
着任挨拶：天竜川上流河川事務所長…………… 8
長野県砂防ボランティアだより…………… 9～11
長野県治水砂防協会行事等経過・予定…………… 12

全国治水砂防協会通常総会開催される



全国治水砂防協会通常総会の様子

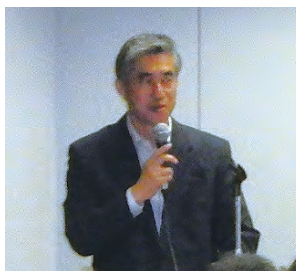


佐々木佐久穂町長受賞

平成28年5月24日、(一社)全国治水砂防協会の第80回通常総会がシェーンバッハ・サボーにおいて会員等750名出席のもと、来賓として国会議員の皆様、国土交通省関係者など大勢の方々が臨席し盛大に開催されました。本県からは、藤澤泰彦会長代理をはじめ総勢88名(出席会員54名の内37名は市町村長の皆様)にご出席いただきました。総会に先立って、平野啓子氏が「証言から、語りで未来に届ける」と題し、日本人の生み出したすばらしい日本語を、心の中から取り出して魂を吹き込んで届けるということを特別講演されました。

総会は始めに、綿貫民輔会長が挨拶され、宮内秀樹国土交通大臣政務官から祝辞をいただきました。その後、平成27年度事業報告・収支決算報告、平成28年度事業計画・収支予算案について採決、全会一致をもって承認されました。

続いて功労者表彰が行われ、佐々木定男氏(元長野県治水砂防協会会長、佐久穂町長)が受賞されました。



講師の西山砂防部長



講師の岡本理事長

通常総会終了後、県協会は砂防講演会及び意見交換会を開催しました。この講演会は、砂防事業の理解を深めるため(一社)全国治水砂防協会通常総会に併せ毎年行っているものです。

今年も、講師に西山幸治国土交通省水管理・国土保全局砂防部長をお招きして「土砂災害を防ぎ命とくらしを守る」について、岡本正男(一社)全国治水砂防協会理事長より「日本砂防史と赤木先生」について、ご講演いただきました。その後、神野忠広利根川水系砂防事務所長、田中秀基富士川砂防事務所長、五十嵐祥二松本砂防事務所長、森下淳湯沢砂防事務所長、草野慎一多治見砂防国道事務所長、中谷洋明天竜川上流河川事務所長の皆様より話題提供をいただきました。



「立山会議室」での講演会の様子

大勢の皆様にご参加いただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

長野県治水砂防協会通常総会開催

平成28年8月4日、長野市内において第78回通常総会が多数のご来賓の方々をはじめ県内市町村長並びに関係者ご出席のもと、開催いたしました。藤澤泰彦会長代理による開会の挨拶の後、砂防事業の推進に永年にわたりご尽力いただいた長野県治水砂防協会元会長で南佐久支部前支部長の佐々木定男佐久穂町長、長野県治水砂防協会前会長で木曾支部前支部長の宮川正光氏のお二方の表彰を行いました。

続いて、ご来賓の務台俊介衆議院議員、小松裕衆議院議員、木内均衆議院議員、今井一之国土交通省水管理・国土保全局砂防部保全課長、岡本正男一般社団法人全国治水砂防協会理事長、依田明善長野県議会危機管理建設委員長、奥村康博長野県建設部長の皆様からご祝辞を賜りました。引き続き、議事に入り平成27年度事業報告及び歳入歳出決算報告、平成28年度事業計画・収支予算（案）が審議され、いずれも原案どおり可決されました。その後、辞任等による役員改選がありました。

引き続き、砂防講演会が開催され、今井一之国土交通省保全課長、岡本正男（一社）全国治水砂防協会理事長、神野忠広利根川水系砂防事務所長、田中秀基富士川砂防事務所長、五十嵐祥二松本砂防事務所長、森下淳湯沢砂防事務所長、綱川浩章多治見砂防国道事務所長、椎葉秀作天竜川上流河川事務所長の皆様からご講演・話題提供をいただきました。



今井保全課長



岡本理事長



受賞後、挨拶される宮川氏、佐々木町長

役名	氏名	職名
会長	藤澤泰彦	松塩筑・犀川支部長(生坂村長)
副会長	松本久志	姫川支部(小谷村長)
〃	伊藤博文	土尻川支部(小川村長)
〃	牛越 徹	信濃川・姫川砂防工事促進期成同盟会長(大町市長)
〃	杉本幸治	天竜川直轄砂防事業促進期成同盟会長(駒ヶ根市長)
理事	新井寿一	南佐久支部長(小海町長)
〃	米村匡人	北佐久支部長(立科町長)
〃	母袋創一	上小支部長(上田市長)
〃	曾我逸郎	上伊那支部長(中川村長)
〃	松島貞治	下伊那支部長(泰阜村長)
〃	唐澤一寛	木曾支部長(木祖村長)
〃	岡田昭雄	更埴支部長(千曲市長)
〃	峯村勝盛	長野支部長(飯綱町長)
〃	足立正則	飯水岳北支部長(飯山市長)
〃	下川正剛	姫川支部長(白馬村長)
〃	加藤久雄	土尻川支部長(長野市長)
監事	高野忠房	犀川支部(麻績村長)
〃	平林明人	大町支部(松川村長)
参与	依田明善	長野県議会危機管理建設委員長
顧問	奥村康博	長野県建設部長
〃	山田一榮	(一社)全国治水砂防協会砂防シニアアドバイザー
〃	郷津久男	(一社)全国治水砂防協会砂防シニアアドバイザー
〃	中原正純	(一社)全国治水砂防協会砂防シニアアドバイザー



第78回通常総会様子



長野県治水砂防協会会長退任のあいさつ

前南木曾町長 宮川 正光

5月12日をもって、町長を退任し、長野県治水砂防協会の会長も退任いたしました。

今までの会長の中では一番短期間で、仕事らしい仕事は何もしていませんが、在任中は、全国一の会員数と活発な事業展開をされている会員の皆様のご支援ご協力と県の砂防課の皆様の手厚いお支えがあって無事大役を務めることができました。また、8月の総会では、功労賞という私には似つかない表彰もいただき、感謝に耐えられません。

私の町南木曾は、過去幾度となく土石流をはじめ水害などに見舞われ、災害の怖さ、人の命の尊さを身に染みているところですが、打つ手が及ばず、近年も一人の命が奪われる土石流災害が発生しました。過去の災害からこの方国・県のご助力は大変なもので、今回の災害でも、最小の被害に収まったと思います。また、全国からのご支援に、改めて感謝の気持ちをお伝えいたしますが、長野県は、どこの市町村にもこのような災害の恐れがあり、地域住民の皆さんが、安全で安心して暮らせる日々を願っています。生意気を申しますと、そんな皆さんの期待を背負い、藤澤会長さんを先頭に会員一丸となって砂防事業の促進に力を入れていかなければなりません。

砂防事業は実に地味な仕事で、その効果は国民全体にまだいきわたっていませんが、砂防事業が災害予防として効果を上げている事例は全国各所にあり、災害が発生した後の手当てを考えると、いかに費用についても効率的か立証されています。尊い命や、財産を守り、一人の犠牲者も出さないという覚悟で、全国治水砂防協会の皆さんや、国土交通省水管理・国土保全局砂防部の皆さんに強く働きかけて、地域住民の期待に応えていって欲しいと心から願い、退任のあいさつといたします。



長野県治水砂防協会会長就任のあいさつ

生坂村長 藤澤 泰彦

この度の総会に於いて、「長野県治水砂防協会」の会長就任に当たりご挨拶を申し上げます。

長野県治水砂防協会は全国協会に先駆け、昭和9年に設立されて以来、長野県の砂防関係事業を推進されてきました歴史と伝統がございます。

長野県は全国で第4位の面積を有し、「日本の屋根」と呼ばれ、四方を3,000m級の山々に囲まれ、県土の85%が山地であり、北アルプス、南アルプス等は、千曲川、犀川、木曾川、天竜川、姫川等の豊富な清流の源となっており、四季折々の美しい豊かな自然環境に恵まれています。

しかし、県土の多くが急峻な地形や複雑で脆弱な地質が広く分布しているため、土石流、地すべり、がけ崩れなどの危険箇所が極めて多く、これまで幾度となく土砂災害を被ってきました。また、糸魚川静岡構造線、中央構造線の2つの大きな断層があり、火山噴火、大地震の発生が危惧されています。

そういう中砂防事業は、土砂災害から県民の生命と財産を守り、災害に強い県土づくりに向けて、砂防堰堤、床固工、山腹工等の整備や既存施設の健全性確保などのハード対策を強化していかなければなりません。

また、土砂災害警戒区域の指定や災害発生時に迅速的確に避難行動がとれるように、地域防災計画の策定、ハザードマップの作成、各地区の防災マップの作成とともに総合防災訓練の実施による自助・共助の構築など、減災のためのソフト対策の強化に努めることも重要です。

そして、県民が豊かな自然環境の中で安全で安心して暮らせるために、ハード・ソフト両面から砂防事業を促進しなければなりません。

現在の財政は極めて厳しい状況にあります。会員市町村や関係機関との連携のもと、引き続き砂防事業の一層の推進とともに、防災意識の向上や啓発、国・県に対する要請活動についても、積極的に取り組んでまいりたく思いますので、関係各位の更なるご指導・ご支援をお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。



役員就任にあたって

副会長 小谷村長 松本 久志

このたび、副会長を仰せつかりました姫川支部小谷村長の松本久志です。長野県治水砂防協会の発展のために微力ではございますが、会長を補佐し最善の努力をしてまいる所存ですので、どうかよろしく願いいたします。

小谷村は断層の集合体とも言われる糸魚川静岡構造線の上に位置し、急峻な山岳地形に加え、脆弱な地質が広く分布し、平成7年の豪雨災害のような土石流、がけ崩れ、地すべりといった様々なタイプの土砂災害を過去幾度となく被ってまいりました。加えて、地震を起因としたがけ崩れや地滑りなども経験しています。一昨年の神城断層地震のおりは、長野県内はもとより全国の皆さんに様々なご支援をいただき、また、道路・水道・農業施設などの災害復旧事業に加え、災害関連緊急地すべり対策事業など砂防事業や治山治水事業のおかげで地震災害からの復興を進めることが出来ました。あらためてご支援いただいた皆様方や関係機関に御礼を申し上げます。

小谷村は全国で唯一の砂防事務所がある村（出張所を除く。九州の相良村に川辺川ダム砂防事務所）だと考えていますが、この土地で人々が生活していくかぎり、砂防事業など土砂災害から住民を守るための事業が必要であり重要なことを、私も住民も身に染みて感じております。事実として、姫川砂防事務所の行う事業に加え、国直轄の松本砂防事務所の砂防事業、県や中信森林管理署の行う治山事業などのハード対策や、土砂災害警戒区域等の指定、土砂災害警戒情報などソフト対策により村民の命は守られているのです。

現在、地方創生が叫ばれ、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした一連の政策が行われておりますが、地球温暖化の影響が巨大台風やゲリラ豪雨などの異常気象、そして地震により土砂災害が多発し多数の生命や財産が失われています。地方の人口減少に歯止めをかけ、地方に人を呼び戻すためには、まず地方が安全で安心できる場所であることが不可欠であると考えています。地域の安全・安心を確保するため、砂防事業の促進に一層の努力をしてまいりますので、皆様のご支援ご協力を切にお願い申し上げます、就任の挨拶といたします。



砂防なくして命なし

副会長 小川村長 伊藤 博文

この度、副会長を仰せつかりました。非力ではありますが、会長はじめ役員さんと力を合わせて治水砂防事業の発展に頑張る決意でありますのでご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

宇宙ステーションから日本列島を見ると糸魚川から富士川河口にかけた、いわゆる糸魚川静岡構造線と、上越市から千曲川沿いに南下して小田原に至る線の間は大きな窪地になり、山と谷が複雑なシワ模様となっているそうです。ユーラシア大陸に乗っている西日本に対し北米プレートに乗って移動して来た東日本がぶつかり、アルプスを押し上げ、海底が隆起してできたのが私たちの暮らす大地だという説を裏付けているようです。

このため地殻は軟弱で土石流災害、地震災害、火山災害、河川の出水災害と自然災害の危険は何時も身近にあり、砂防事業なくしては、日本列島の窪地では生きて居られません。今年9月の台風16号は関東沖を東に抜けて行ったにもかかわらず、小川村は県道と村道4箇所で決壊が発生、2箇所の開通復旧には半年以上かかりそうです。台風による雨量は4日間で200mmでした。小川村の降雨災害発生が目どが、この雨量で「多年砂防事業に取り組んだ結果、この程度の被害で済んだ」というのが実感です。九州地方や関東東北豪雨のように一度に1000mmも降ったら村は壊滅状態です。

神城断層地震では、小谷村の山腹の崩壊を砂防堰堤により県道への流出をくい止めました。

30年前の県西部地震では、20名余が犠牲になった御嶽山の大規模な崩落が堰堤で止まった災害直後の現場にも遭遇し、砂防無くして安住の地なしと芯から思いました。

情報化社会が深まり、行政の流れはソフト事業重視に向きがちになっています。それもいいのですが、日本列島の窪地を守っている私共にはハード、ソフトの両方が必要です。県と国へのねばり強い働きかけに全力をあげるしかありません。皆様のご理解、ご協力をお願い致します。



着任挨拶

北陸地方整備局
湯沢砂防事務所長
森下 淳

4月1日より湯沢砂防事務所長を拝命いたしました森下淳（もりしたあつし）です。よろしくお願いたします。湯沢砂防事務所は、新潟県南魚沼郡湯沢町にあり、信濃川の支川である魚野川、清津川、中津川の各流域で直轄砂防事業及び直轄地すべり対策事業を実施しています。事業範囲は新潟県と長野県にまたがっていますが、長野県内では中津川の上流域である栄村、木島平村、山ノ内町の一部がその範囲に含まれます。現在は、栄村内で砂防堰堤や溪流保全工を建設する事業を実施しています。

管内の各河川は、どこも目を見張るような清流で、鮎、イワナ、カジカなどの溪流魚も多くみられます。また、山々は青く、空気は清涼で、夜空には満点の星々が輝いています。今年は雪解けが早かったため、まだ春と夏の風景しか体験していませんが、きっと秋の燃えるような紅葉も冬の一面の銀世界も、息をのむほど素晴らしい景観でしょう。長野県栄村、新潟県津南町にまたがる秋山郷では、このような都心部ではなかなか経験できない貴重な自然環境や自然体験を求めて、毎年多くの観光客が訪れます。事務所のある湯沢町でも、自然景観に加えて、温泉やスキーなどの高原リゾートにより、やはり都心部から大変多くの方（最近では外国人の観光客も多いと聞いています）

が訪れ、貴重な体験を楽しんでいます。もちろん、観光客による一過性の活動だけではなく、その地に古くから住む地域の方々による日々の生活がしっかりと根付いています。

湯沢砂防事務所の行う砂防事業は、そんな地域住民も観光客も含めたすべての人々の生活や活動、そして貴重な自然環境を守り、育て、活性化させることを目的としています。私は、これら事業を行うものとして、地域のあり方や地域に住むひとりひとりをしっかりとふれあい、その実態を肌で感じることで、自らが何を守っているのか、何を守るべきなのか、常に意識をしながら事業を進めるべきだと考えています。

先日、苗場山、鳥甲山、佐武流山の山開き神事に参加させていただきました。宮司の方が頭襟（とकिन）をかぶるなど、まるで山伏のような服飾をされていたことを珍しく感じながら、山岳信仰などその土地の古くからの風土に少しだけ触れることができたように感じました。また、これ以外にも地域のお祭りやイベントにはできるだけ参加し、その土地々々の文化・風土を感じながら、地域の方との交流を楽しんでいます。地形や地質、気候などの自然条件を知るために管内を限なく歩き回ることももちろん大事にしていますが、このような地域の行事やお祭りなどにも積極的に参加することで、できるだけ地域住民の生の生活や営みを直接感じとることを大事にしたいと思います。そのうえで、地域の方のご協力を得ながら、これからはしっかりと「地域を守る」砂防事業を進めてまいります。今後とも、引き続きご支援、ご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。



苗場山、鳥甲山、佐武流山の山開き神事の様子



紅葉が素晴らしい秋山郷と中津川





着任挨拶

中部地方整備局
多治見砂防国道事務所長
綱川 浩章

本年7月1日付けで多治見砂防国道事務所長に着任しました綱川浩章です。長野県治水砂防協会の皆様には、様々な面でお世話になるかと思えます。よろしくお願いたします。

これまで長野県内の砂防事業については、平成8年1～3月松本砂防事務所、平成8～9年度長野県姫川砂防事務所、平成24～25年度湯沢砂防事務所で4年3ヶ月携わったこととなります。平成15～16年度中部地方整備局河川部で砂防担当していた期間も加えさせていただけるのであれば、6年3ヶ月となり、今回で5回目となります。これまで経験をさせていただき、長野県は地質や地形、気象条件など県土の広さから各地域で違いはあるものの、基本的に急峻な地形と脆弱な地質条件であり、土砂災害が発生しやすい県土であると実感しております。このような状況の中、全国に先駆けて活動を開始されかつ活発に継続されている長野県治水砂防協会の皆様に尊敬と感謝の念を抱くとともに、本県の土砂災害の防止に関わることができる機会を得たことに緊張とうれしさを感じております。

さて、多治見砂防国道事務所は長野県上松町、大桑村、南木曾町の木曾川水系左岸側で砂防事業を約14億円余にて推進しています。

上松町では、上流に北俣沢崩壊地を抱える滑川流域において、引き続き北俣沢の護床工の整備を進めるほか、連続した床固工を配置する「滑川遊砂工」の用地買収等を進めています。

大桑村では、日本最大級の鋼製スリット高さ21.0mとなる「越百第3砂防堰堤」の建設工事を継続実施するほか、平成25年8月の豪雨で国道19号に土砂が流出するなどの災害が発生した下在蛇抜沢及びその周辺の砂防堰堤工群整備に向け用地買収等を進めてまいります。

南木曾町では、平成26年7月に大規模

な土砂災害が発生した梨子沢において、今年度中の完了を目標に砂防堰堤や流路工等の災害復旧関係事業を進めます。また、土砂流出の著しい溪流である和合蛇抜け沢について、沈砂地重整備のための工事用道路の整備を進めています。

また、平成26年9月27日の御嶽山噴火災害への関係機関における相互連携の災害対応経験を活かし、御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討会等を通じて、噴火シナリオや緊急減災計画の見直しを進めていきたいと考えております。本年10月20～21日に木曾町で開催される「2016 火山砂防フォーラム」などの機会を通じて、地元、関係機関と協力し、噴火災害への対応の教訓を、御嶽山と人々の関わりの歴史、文化、自然等とあわせ、全国に発信していきたいと考えています。

最後になりますが、着任後、駒ヶ岳に7月上松から一人で、8月駒ヶ根から家族と登りました。地形の急峻さや崩壊地の状況など一部とはいえ実体験することができました。管内には、他にも登山対象としては良い山が多いので荒廃状況をこの目で見ることも兼ねて引き続き登って行きたいと思っております。



梨子沢第1砂防堰堤災害復旧工事
H27.10. 鋼製堰堤完成



越百第3砂防堰堤工事
完成すると日本最大級の鋼製スリット
高さ21.0mの鋼製砂防堰堤
写真はH28.2末
鋼製スリット部高さは約7.6m



着任挨拶

中部地方整備局
天竜川上流河川事務所長
椎葉 秀作

7月1日付で中部地方整備局天竜川上流河川事務所長に着任しました椎葉と申します。

長野県治水砂防協会の皆様方には、平素より当事務所管内の直轄砂防事業の推進にあたり、力強いご支援を頂いておりますことに深く感謝申し上げます。長野県内の勤務は初めてとなりますが、協会の皆様や長野県砂防課の皆様とは、砂防部砂防計画課、富山県砂防課に勤務していた時期を通じて大変お世話になっており、今回晴れて長野県内の勤務となったことを大変光栄に感じております。皆様と充分意思疎通を図りながら、土砂災害対策を推進してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

天竜川上流河川事務所は、中央アルプスと南アルプスに挟まれた伊那谷と呼ばれる地域で「笑顔、きらきら、天竜川」を合い言葉に、河川・砂防の各種事業や行政サービス、大規模災害への備え等に取り組んでいます。直轄砂防事業は天竜川支川の三峰川、小渋川、太田切川、中田切川、与田切川、片桐松川、新宮川、遠山川の流域で実施しており、入谷（下伊那郡大鹿村）、此田（飯田市）の2地区では地すべり対策を行うとともに、天竜川中流沿川域での地すべり調査を進めています。

過去には昭和36年の大規模な土砂災害・洪水災害、戦後1位となった昭和58年の洪水災害、また近年では平成18年7月豪雨災害等がありましたが、これらの自然の脅威を、協会会員市町村を始め、建設業の皆様等、多くの関係者の支援を受けて乗り越えることができました。去る6月18日には、上伊那郡箕輪町において、平成18年7月豪雨から10年の天竜川シンポジウムを開催し、多くの皆様の参加により盛大に実施できましたことと併せ、厚く御礼申し上げます。

未来に向かっては、天竜川上流域では再生可能エネルギーの導入、日本ジオパークに関する取り組み、三遠南信自動車道やリニア中央新幹線の整備、航空宇宙特区の拡大など、地域の更なる発展のための布石が次々と打たれています。

一方、全国的には平成27年9月の局所的な豪雨による鬼怒川の災害や本年4月の熊本地震による災害、東北地方を襲った今年8月の台風10号による災害等が発生しており、治水砂防対策の必要性が改めて認識されたところです。

このような状況を踏まえ、地域の持続的・自立的発展を支える産業基盤づくりと流域の安全安心の向上のため、引き続き砂防事業、地すべり対策事業等を着実に推進するとともに、大規模自然災害等の危機に対しては、中部地方整備局のTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)等として、地方整備局の保持している各種災害対策車両・機器を十分に活用し、協会会員市町村や長野県の皆様と協力して、被害を抑制・軽減する体制を取ってまいりたいと思っております。

協会会員の皆様からのご意見も今後の取り組みにおいて大いに参考となりますので、遠慮なく気軽にお声かけいただければ幸いです。最後になりますが、皆様のますますのご健勝と地域の発展をご祈念申し上げ、着任の挨拶とさせていただきます。

長野県砂防ボランティア協会が防災功労者内閣総理大臣表彰及び土砂災害防止功労者表彰（国土交通大臣表彰）を受賞しました

平成26年7月の台風第8号に伴う南木曾町梨子沢での土石流災害及び、平成26年11月の最大震度6弱を観測した神城断層地震の際に、長野県砂防ボランティア協会が実施した土砂災害危険箇所の緊急点検結果が、県の応急対策及び市町村の警戒避難体制の構築に役立ち、地域住民の生命・身体の保護に多大な貢献をしたと認められ、平成28年9月に防災功労者内閣総理大臣表彰を、また平成28年6月に土砂災害防止功労者表彰（国土交通大臣表彰）をそれぞれ受賞しました。

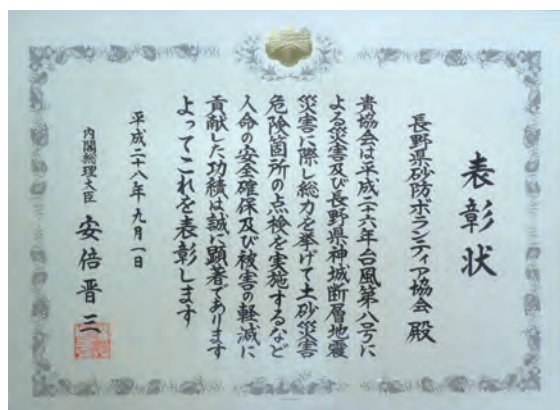
長野県砂防ボランティア協会では、平成21年1月に長野県と「土砂災害時等における緊急応援に関する協定」を締結しており、今回も県の要請により、南木曾町での災害発生の際には土石流が発生した梨子沢周辺の23溪流について延べ9名の協会員による緊急点検を、また神城断層地震発生の際には土砂災害危険箇所約900箇所について、6日間にわたり延べ44名の協会員により点検を実施しました。

●平成28年度防災功労者内閣総理大臣表彰 受賞

平成28年9月12日(月)に、総理大臣官邸において平成28年防災功労者内閣総理大臣表彰の表彰式が行われました。

本表彰は、『「防災の日」及び「防災週間」について』（昭和57年5月11日閣議了解）に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体又は個人を対象として行われるものです。

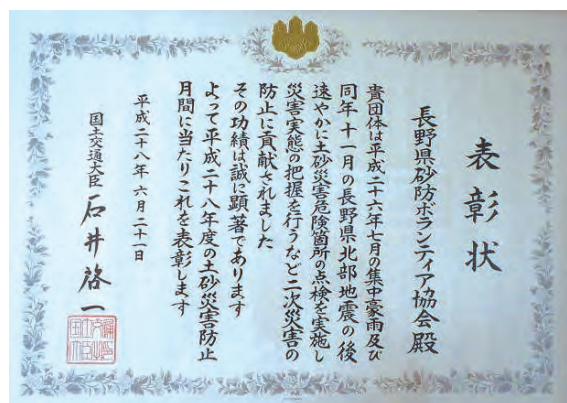
当日は当協会の尾坂壽夫会長が出席し、安倍内閣総理大臣から表彰を受けました。今回、国土交通省砂防部関係では、長野県砂防ボランティア協会の他、砂防ボランティア広島県協会、立山砂防女性サロンの会が受賞されています。



●平成28年度土砂災害防止功労者表彰（国土交通大臣表彰）受賞



表彰式の様子



平成28年6月21日(火)に、岡山市の岡山市民会館で地元住民や各県防災担当者等約900人が参加し、平成28年度（第34回）土砂災害防止「全国の集い」が開催されました。全国の集いは、人的被害299名を出した昭和57年の長崎豪雨災害を契機に、土砂災害について住民の理解と関心を深め、人命・財産の被害の軽減を目指すことを目的として毎年6月に開催されており、当集いの開会式典において、当協会が土砂災害防止功労者表彰(国土交通大臣表彰)を受賞しました。

長野県砂防ボランティア協会としては、平成23年に発生した長野県北部の地震による土砂災害に際し二次災害防止のための緊急点検等に尽力した功績等が認められ平成24年度に受賞して以来、2度目の受賞となります。

これらの表彰を戴くことができたことは、とても名誉なことであり、大変嬉しく感じています。またその反面、これからの活動が表彰に恥じることがないように、今後の活動に対し決意を新たにしましたところ です。

長野県砂防ボランティア協会の現会員、先輩諸氏、そして関係者の皆様、関係機関の皆様、様々な形で支援下さっている皆様、多くの皆様に支えられながら、今日まで活動を続けることができています。今回の表彰も多くの皆様から支えていただいた結果だと考えており、紙面をお借りして皆様に感謝申し上げます。

《砂防ボランティアだより》

長野県砂防ボランティア協会

●平成28年度長野県砂防ボランティア協会総会が開催されました

平成28年6月8日(水)に長野市生涯学習センターで、平成28年度長野県砂防ボランティア協会総会が開催されました。140名の会員が出席し、平成27年度の事業報告・会計報告、平成28年度の事業計画などについて承認されました。

講習会では、長野県建設部蒲原潤一砂防課長から最近の長野県砂防行政について講演をいただきました。



また、一般社団法人長野県建設業協会の平澤里枝さんを講師にお招きし、『私の仕事』と題して講演をいただきました。平澤さんは、現場代理人・監理技術者として現場の実務に携わる傍ら、平成27年からは、新たに発足した長野県建設業協会女性部の初代会長に就任されており、土木の現場で働く女性=所謂「ドボジョ」の先駆者として、女性の建設業への入職促進や、女性が活躍できる建設業の構築を目指し、日々ご活躍されています。

講演では、ご自身が関わられた千曲川に架かる栄村箕作大橋の下部工工事現場における現場代理人としての奮闘の日々についてお話いただきました。気象条件や時間の制約がある中で、仮設工法の選択や千曲川からの流入水など日々刻々と変化する条件への対応など、写真等により詳しく説明いただき、現場に直接携わる技術者の生の声をお聞きすることができ、講演後には参加した会員から多くの感想・質問が寄せられるなど、大変有意義な講演会になりました。

●平成28年度の主な活動について

〈土砂災害防止月間に伴う危険箇所点検パトロール〉

毎年6月の土砂災害防止月間にあわせ、建設部の現地機関と合同で土砂災害危険箇所や砂防施設の点検パトロールを実施しています。今年度は12建設事務所及び3砂防事務所から派遣要請があり、延べ50名の砂防ボランティア協会員が地元警察署、消防署、市町村、地方事務所、自治会代表者などの方々と点検パトロールを実施しました。点検には砂防や地すべりに対する専門的な知識と経験が必要であり、当協会員の参加が重要となっています。



点検パトロールの状況

〈歴史的施設の維持管理活動〉

当協会では例年地域のみなさんとの協働による草刈り及び砂防施設点検を実施しています。今年も砂防ボランティア協会員が参加し、小川村薬師沢、松本市牛伏川、千曲市荻沢川を対象に汗を流しました。



千曲市荻沢川での活動状況



小川中学校生徒による活動

小川村薬師沢では、小川中学校の皆さんが全校生徒で実施している課外活動「一日小川」の一環として参加していただきました。中学生の皆さんには、地元の方々と共に維持管理活動することで、この地域の土砂災害やその対策の歴史について学習を深めていただきました。

長野県砂防ボランティア協会ではこのような地域と連携した土砂災害防止活動に携わり、地域防災力の向上に貢献しています。

●事務局からのお願い

地域の防災活動などで砂防ボランティアの派遣を希望される方は、長野県砂防ボランティア協会（長野県建設部砂防課地すべり係内026-235-7322）までご相談ください。

平成28年度4月長野県建設部砂防課・人事異動

◎転 入

砂防課 調査管理係担当係長へ
 細川 盛樹 (安曇野建設事務所)
 砂防課 調査管理係へ
 関 達也 (飯田建設事務所)
 砂防課 砂防係担当係長へ
 北原 誠 (上田建設事務所)
 砂防課 砂防係へ
 山田 晃 (姫川砂防事務所)
 砂防課 地すべり係担当係長へ
 矢口 大輔 (調査管理係)
 砂防課 地すべり係へ
 山口 有理 (犀川砂防事務所)

◎転 出

飯田建設事務所 維持管理課へ
 小笠原 和吉 (調査管理係)
 佐久建設事務所 整備課へ
 吉川 英昭 (砂防係)
 土尻川砂防事務所 砂防課へ
 石田 美雪 (砂防係)
 技術管理室 副主任専門指導員
 荻窪 孝 (地すべり係)
 松本建設事務所 計画調査課へ
 牛澤 大介 (地すべり係)

平成28年行事等経過・予定

2月18～19日	第55回砂防および地すべり防止講習会	東京都：砂防会館別館1階
5月23日	全国治水砂防協会参与会	東京都：砂防会館別館3階
”	” 賛助会員情報連絡会議	東京都：砂防会館別館3階
5月28日	全国治水砂防協会通常総会	東京都：砂防会館別館1階
”	長野県治水砂防協会砂防講演会	東京都：砂防会館別館3階
6月1～30日	土砂災害防止月間	会議室「立山」
6月10日	長野県砂防ボランティア協会総会	長野市生涯学習センター
7月2～3日	大人の文化祭	長野市：Mウェブ
7月13日	長野県治水砂防協会監査	長野県庁砂防課内
7月20日	長野県治水砂防協会理事会	長野市：ホテル国際21
8月4日	第77回長野県治水砂防協会通常総会	長野市：メルパルクNAGANO 3階
9月8日	第3回土砂災害対策実務講習会	東京都：砂防会館別館1階
10月6～7日	第5回砂防現地視察と討論会	広島県：全国協会主催(首長対象)
11月7～8日	(一社)全国治水砂防協会 北陸信越地区支部長・参与会議	福井県：鯖江市
11月14日	全国治水砂防協会参与会	東京都：砂防会館別館3階
”	” 賛助会員情報連絡会議	東京都：砂防会館別館3階
11月15日	全国治水砂防促進大会	東京都：砂防会館別館1階
”	” 長野県治水砂防協会要望活動	東京都：衆・参議院議員会館、国土交通省

【長野県治水砂防協会 姫川支部のお知らせ】

本年4月をもちまして、村越美樹さんは姫川支部を出産のため退職されました。いつも笑顔で何かとお手伝いいただきました。無事に男の子誕生で喜ばしいです。後任には、松原志保さんが着任されました。明るい素敵な女性です。神奈川県から白馬村へ移住されました。よろしく願い致します。

●第59号 編集・発行 長野県治水砂防協会
 〒380-8570 長野市大字南長野幅下692-2 県庁砂防課内 E-mail : n-sabo@sky.plala.or.jp